

＜イベントについて＞
＊講堂で行うイベントは、基本的に定員200名(先着順)です。＊**要申込**の表記がないイベントは申込不要です。＊**有料**(材料費や保険料など)の表記がないイベントは無料です。＊**要申込**のイベントは、原則として開催日一ヶ月前の間館日(休館の場合は翌間館日)9:30より電話もしくは受付カウンターで受け付けます。定員に達したら受付を終了します。イベントの日時や内容に変更が出た場合、その都度ホームページなどでお知らせします。
＊「みんな」は、博物館の活動を応援してくださる皆さんと一緒に、協力してつくりあげる「みんなでつくるイベント」を指します。

企画展「私たちの戦争体験ーアジア・太平洋戦争終戦80年ー」関連イベント

- 講演会「平和を祈って～『きけわたつみのこえ』会津の学徒兵:長谷川信の生涯」
8/3(日)13:30～15:00 講堂 長島雄一さん(柳津町文化財専門アドバイザー)
※長谷川信は軍隊生活の中で何を考え、願ったのか。史料をもとにお話いただきます。
- 講演会「兵士の手紙を読むー軍事郵便から見えることー」
8/23(土)13:30～15:00 企画展示室 栗原祐斗(当館学芸員)
※手紙を読み、戦時下を生きた人々の声に耳を傾けてみましょう。
- 展示解説会 **有料** 企画展観覧料または年間パスポート
各日13:30～14:30、8/10のみ15:15～16:15 企画展示室 当館学芸員
7/20(日)・8/10(日)・8/15(金)・8/17(日)・9/7(日)・9/14(日)
- 手話付き展示解説会 **有料** 企画展観覧料または年間パスポート
8/31(日)13:30～14:30 企画展示室 当館学芸員

みんなでつくるイベント 会津磐梯山盆踊り

会津磐梯山盆踊り保存会のみなさんによるけんぱくでの盆踊りも、今年で14回目となります。保存会のみなさんの思いから、毎年8月15日の終戦日に行うことを大切にしてきました。終戦から80年を迎える今年、鎮魂や供養などお盆本来の姿に思いをさせながら、盆踊りに参加してみませんか？保存会のみなさんの手ほどきで踊りを練習する時間もありますので、初めての方でもお気軽にご参加いただけます。

Pick Up!

キッズ・ファミリー向けイベント

- 会津短大生とあそぼう
9/28(日)10:00～12:00 なんだべや 会津大学短期大学部あそびサークルの皆さん
※大学生のお兄さんお姉さんが遊んでくれます。お子様の博物館デビューどうぞ！
- こどもミニミニはくぶつかん
8/9(土)10:30～15:30 なんだべや 会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科、あそびサークルの皆さん
※子ども大人も楽しめる1日です！ いるんなワークショップもあるよ。
- 博物館でもよみきかせ
7/12(土)・8/9(土)・9/13(土)10:30～11:30 なんだべや
※地域の読み聞かせ団体の方や学芸員がお話します。「ほっこり」「わくわく」できる時間をお楽しみください。

見たい!知りたい!楽しみたい! 多彩なイベント

美術講座 美術放談2「わたしの可愛いひと」
7/12(土)13:30～15:00 講堂 小林めぐみ・塚本麻衣子・原惠理子(当館学芸員)、川延安直(当館専門員)
※目の中に入れても可愛い孫。家族のような動物たち。愛情を注ぐ対象の姿を残そうと作られた美術作品があります。また愛でるべき愛らしい美術も。あなたの可愛いひとは？

みんな 武士が愛したかそけき音色・七絃琴に触れる
7/19(土)・9/20(土)10:30～12:00、13:30～15:00 なんだべや 飛田立史さん(琴士)
※江戸時代、会津藩士も弾いていた「七絃琴」どんな音色が聴いてみませんか？ 弾琴にも挑戦できます。ご自由にお立ち寄りください。

考古学講座 縄文土器をつくらう **要申込** 定員20名 **有料** 450円
7/26(土)・7/27(日)10:00～15:00 実習室 高橋 満・五十嵐岳樹(当館学芸員)
※10/5(日)の野焼きとあわせて3日間とも参加できる方に限ります。
※縄文人の技に学ぶ土器づくり。無心に手を動かせば、縄文人の心が理解できるかも？

博物館講座 戦争・災害伝承を考える
8/10(日)13:30～15:00 講堂 栗原祐斗・筑波匡介・山口拡(当館学芸員)
※戦争や災害といった負の歴史を、私たちはどのように伝えていけるのでしょうか。歴史・災害・民俗の3分野の学芸員が、それぞれのフィールドから「伝承」について語ります。

美術講座 美術放談3「戦争と美術」
8/16(土)13:30～15:00 講堂 小林めぐみ・塚本麻衣子・原惠理子(当館学芸員)、川延安直(当館専門員)
※美術は、その作品が生まれた時代背景を背負うことがあります。近代以降続いてしまったいくつかの戦争。幕末、明治、大正、昭和の美術から戦争との関わりと紐解きます。

みんな 見て触れて、能を体験してみよう **要申込** 定員15名
8/24(日)13:30～15:30 なんだべや 会津能楽会のみなさん
※能ってなんだか難しそう？ 実際に体験すると、能の面白さに気づきます。節をつけてうたったり、それに合わせて舞ってみたり。楽器や衣装にも触れてみますよ。

災害分野講座 楽しいそなえ
8/31(日)10:30～11:30 なんだべや 筑波匡介・鈴木弥生(当館学芸員)
※「いざ」といときの備えについて、大人も子どもと一緒に考えてみませんか？

7～9月のポイント展

- 遠くからやってきた弥生土器たちー条痕文と遺賀川ー ～9/21
※土器は縄文だけじゃない! 弥生の魅力をお伝えします。
- みんなの震災遺産 7/19～8/22
※「いつも」と「もしも」の備えを考えるきっかけとなりますように！
- 紛争地域の化石たち 7/19～9/15
- 友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展 7/26～9/12
※探検隊のメンバーが収集してきた珠玉の鉱物・化石コレクションをご披露します！今回は、当館学芸員が作った会津の山塩の結晶も併せて展示! 不思議な山塩の世界を紹介します。
- 金山町三條のヤマサキ巻物 8/9～8/31
※巻物が伝える会津の歴史と文化をご紹介します。
- 会津藩の蝦夷地警備 8/9～10/3
※今こそ訓練の成果を見せるとき！
- 斎藤一と会津 9/6～9/26
※新選組隊士斎藤一の写真や関係資料をご紹介します。
- 若松城下絵図屏風を見る 9/17～10/13
※幕末の若松城下町の様子とは？
- 都々古別神社の宝物 9/23～12/14
※普段は資料保護のためレプリカを展示している銅鉢(国指定重要文化財)の“本物”がこの期間にご覧いただけます！

ご案内

【観覧料】
■ 常設展観覧料
一般・大学生400円(20名以上の団体は320円)
県民の日8/21、敬老の日9/15は、すべての方の常設展観覧料が無料です。
■ 夏の企画展「私たちの戦争体験ーアジア・太平洋戦争終戦80年ー」
一般・大学生1,200円(1,000円)、()内は20名以上の団体料金。
三施設共通観覧券をご購入の方は、割引料金800円。
＊高校生以下は常設展・企画展ともに無料です。
■ 年間パスポート 2,400円
購入日から1年間、当館主催の企画展や常設展が何度でもご覧いただけます。
■ 三施設共通観覧券(当館常設展・鶴ヶ城天守閣・茶室隣間)
一般・大学生730円



- JR会津若松駅から約3km
・タクシーで約10分
・まちなか周遊バス「ハイカラさん」で約20分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)
・まちなか周遊バス「あかべえ」で約30分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)

車椅子使用者用駐車場
博物館西側「鶴ヶ城三の丸口」バス停そば:2台
一般駐車場内博物館入り口側:3台

子育て応援駐車場
一般駐車場内博物館入り口側:3台

※妊娠中の方や未就学児のお子さんをお連れの方を対象とした駐車場です。
※ご不明の点はお問い合わせください。

Curator diary



Vol. 24 2025 7～9月号

Vol. 24 2025 7～9月号

Vol. 24 2025 7～9月号

福島県立博物館

除隊記念に戦友と

出征前に見送りの人々と

歩兵第二十九連隊正門

連隊の創設日を祝う軍旗祭の様子

Vol. 24 2025 7～9月号

Vol. 24 2025 7～9月号

Vol. 24 2025 7～9月号

福島県立博物館

歩兵第二十九連隊正門

連隊の創設日を祝う軍旗祭の様子

私たちの戦争体験

会場：福島県立博物館 企画展示室

会期：令和7年7月19日(土)～9月15日(月・祝)

担当学芸員(歴史分野)の栗原祐斗さんに聞きました

Q1 この展示を企画した理由を教えてください

サブタイトルのとおり、アジア・太平洋戦争が終戦して80年の節目であることが大きな理由です。また当館はこれまでに昭和の戦争を扱った企画展を開催したことがなかったので、この段階で一度展示としてまとめておきたいと考えました。

Q2 今回の企画展のキーワードをあげるとなんでしょうか？

「若松連隊」と「手紙」です。本展は2章にわかれており、前半は会津若松に駐屯していた若松連隊(陸軍歩兵第65連隊や29連隊)と地域の関係性を扱います。あまり知られていない近代の会津若松の姿が垣間見えると思います。後半は出征した方の資料から、個々人がどのような戦争体験をしたのかをご紹介します。手紙、軍刀、旗など多種多様な資料が並びますが、実物ならではの訴える力があると思います。

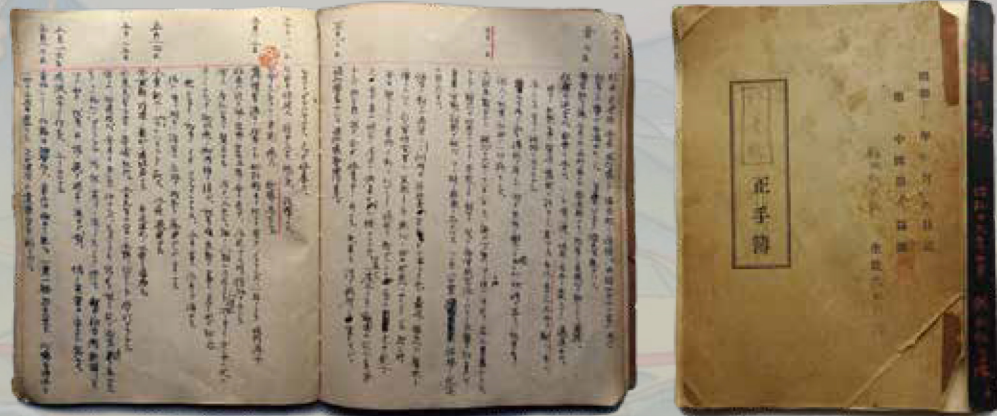
Q3 多くの人にとって、戦争は教科書に載るような遠い過去の出来事になっていますよね

軍人が家族に宛てた手紙には具体的な任務内容は書けませんが、家族への気持ちは素直に記されているように感じます。戦争が遠い昔の出来事に感じる方も、手紙に綴られている言葉に触れると身近なものに感じられるかもしれません。資料から感じたこと、考えたことをご家族や大切な人と語り合ってほしいですね。



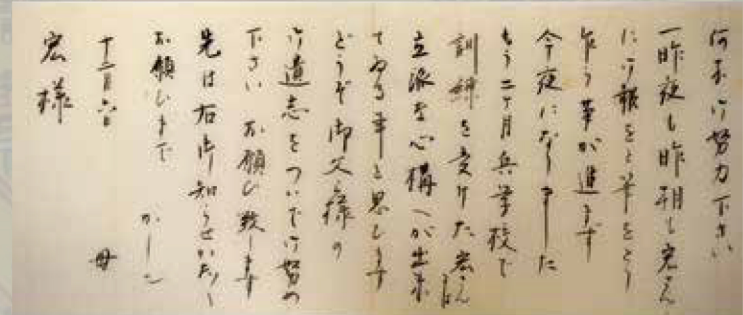
山谷茂幸葉書 山谷欣子宛(当館蔵)昭和15年(1940)
「母によく仕へ、しつかり勉強すること」
茂幸は会津若松出身。朝鮮羅南第六部隊に入營しました。この葉書は、羅南に向かう船に乗る前、広島から妹欣子に宛てたものです。母を支えてしっかり勉強すること、元気で朗らかに生活すること、健康に気をつけるようにと記しています。妹に広島景色を見せてあげたかったのか、厳島神社大鳥居の絵葉書を使っています。

鹿岡円平写真(当館蔵)【初公開】
石川町出身。石川中学校(現 学校法人石川高等学校)卒業後、海軍兵学校(49期)に進み、海軍士官になりました。昭和19年(1944)、重巡洋艦「那智」の艦長として出征しましたが、フィリピン・マニラ湾で米軍艦載機の攻撃を受けて乗艦が沈没、戦死しました。本展ではご遺族よりご寄贈いただいた関係資料の一部を初公開します。



修養録 長谷川信筆(わだつみのこえ記念館蔵)【県内初展示】
「父母、兄弟ヨリノ書簡焼ク。断腸ノ思ヒナリ。」
会津若松出身の書徒兵・長谷川信が訓練期間に記した手記です。特別攻撃隊「武揚隊」に所属し、与那国島北方で戦死しました。手記には訓練のことだけでなく、日々の軍隊生活の中で感じた思いも綴られています。今回、わだつみのこえ記念館のご協力により、故郷・会津若松で里帰り展示できることになりました。

陸軍軍衣 穴澤俊夫使用(個人蔵)【初展示】
喜多方出身の陸軍少尉穴澤利夫の軍服です。中央大学を繰り上げ卒業し、特別操縦見習士官となりました。特別攻撃隊「振武隊」に所属し、昭和20年4月に沖縄方面で戦死しました。婚約者と交わした手紙のやり取りは有名で、現在も新聞やテレビなどで取り上げられることがあります。今回、ご遺族所蔵の軍服を特別にご出品いただけることになりました。初の展示ですので、ぜひご覧ください。



鹿岡朝子書簡 鹿岡宏宛(当館蔵) 昭和19年12月6日付【初公開】
「筆をとり乍(なが)ら筆が進まず、今夜になりました」
円平の妻朝子は広島海軍兵学校に在る長男宏に宛て、夫の戦死を知らせる手紙を出しました。手紙を書かぬ後と思ひながら、筆が進まなかったと記したところに朝子の胸中がうかがえます。



山本五十六・禮子結婚写真(長岡市歴史文書館蔵)
会津藩士三橋康守の三女・禮子(会津若松出身)は、大正7年(1918)に海軍軍人山本五十六と結婚しました。五十六は後に連合艦隊司令長官に就任し、太平洋戦争の中心人物になります。本展では禮子ゆかりの地である会津若松で、山本五十六関係資料をご紹介します。

探してみてね!解説サイン

今年3月に設置したばかりのこちらのサインを、既にご覧いただいた方もいらっしゃるでしょうか。当館では博物館と鶴ヶ城の周遊を促すことを目的に、サインを設置しました。お城の見所や会津の歴史について学びながら、お城と博物館を巡ることができます。何度もお城をご覧になっている方も、きっと新しい発見があるはず!お城の秘密を探りながら、お城と博物館の道中をお楽しみください。



写真撮影：矢尾板和宣氏(ユーティリティ株式会社)

福島県立博物館はかつてお城の一部、三の丸にあり、地面の下にはお堀が眠っています。最新の調査結果に基づき、お堀の幅を復元した植栽を整備しました。以前よりもっと広くなったお堀の幅を、ぜひ体感してください。

もっとお堀のことを知っていただくため、近くにはサインを設置しました。表面には見えない会津の歴史を伝えるため、ランドスケープ・デザイン手法を取り入れました。赤瓦をイメージした色を採用し、お城の柱をイメージした六角角の柱などお城のモチーフを各所に取り入れ、景観も意識しています。

※ランドスケープ：景観や町並み、さらに土地の価値を高めるため造景することを含む。



「お城のここがスゴいんです!」といわれても、どこを見ているかわからない……そんな方も多いのではないのでしょうか。サインの上部には、矢印が書かれています。お城の見どころも、ぱっと把握できる仕組みです。お城初心者でも、お楽しみいただけます。さらにサインのQRコードを読み込むと、お城に関するミニクイズや豆知識をぜひお楽しみいただけます。解説サインは8カ所にあります!



解説サインがどこにあるかを示す案内サインも4カ所あります。こちらもQRコードを読み込むと、お手持ちのスマートフォンで地図をご覧いただけます。サインがどこにあるのか、宝探し感覚でぜひ探してみてください。

ポイント展＋ 遠くからやってきた弥生土器たち

学芸員(考古分野)の佐藤豪さんに聞きました。

ーこの展示を企画した狙いを教えてくださいー

当館には、三島町から出土した国の重要文化財、荒屋敷遺跡出土資料が寄託されています。荒屋敷遺跡は主に縄文時代の終わりごろに営まれた遺跡で、出土品はどれも縄文時代のものづくりの技術を考える上で大変重要な資料なのですが、なかなか人の目に触れる機会がなかった資料もありました。そういった資料の中に、弥生時代へと変化していく過程を語るのに欠かせない「遠賀川系土器」があって、「これはどうしても見てほしい!」と思い展示を企画しました。

ー展示を語る上で外せないテーマはなんですか？

「交流と選択」を重要なキーワードとして考えています。タイトルにした「条痕文」と「遠賀川」は土器の系統の名前なのですが、「条痕文」は東海地方、「遠賀川」は九州の福岡県を中心に発展した土器なんです。遠くからやってきた土器に焦点を当てることで、弥生時代前半期のダイナミックな交流関係と、新たな文化に直面した福島の人々がどういった選択をしたのかに注目していただきたいです。

ー展示のみどころを教えてくださいー

2つの土器は、それぞれ持っている文脈が異なります。福島の地元の土器と比較すれば、当時の人々がどういった文化の影響を強く受けたのかが見えてきます。3点だけの小規模な展示ですが、地元の土器と持ちこまれた土器を並べて展示しているので、比べて見てみて似ているところや違いを感じていただければと。遠賀川系土器は三島町荒屋敷遺跡から出土したものです。遺跡はるばる会津へと持ちこまれた、東北でも会津だけにしかない重要な事例でもあるので、この機会にじっくり見ていただければと思っています。

ー来館される方に伝えたいメッセージがあればお願いします

本展はテーマ展「三島町荒屋敷遺跡を考える」と同時に開催します。テーマ展では伝統的な縄文文化を基盤とする生活を 소개いたします。その一方で、列島規模で動き出していた稲作農耕社会への変化のこく一部を紹介するのが本展です。弥生時代前半期は、伝統的な文化と新来の技術や文化が各地で混ざり合い、変化していく時代です。現代の私たちにつながる米食文化に至るまでの、さまざまな紆余曲折の道のりの一端を、展示を通して知っていただければ幸いです。

遠賀川系土器 三島町荒屋敷遺跡出土三島町蔵 当館寄託 国指定重要文化財



弥生時代の魅力発見!

けんぱく中の人

前号の土屋さんに引き続き、今回も令和6年度からけんぱくに仲間入りした学芸員の佐藤豪さん(考古分野)に直撃。ポイント展＋と併せて弥生時代の魅力に迫ります。

ーまずは自己紹介をお願いします。

学芸員の佐藤です。千葉県出身で、東京の大学・大学院を経て、昨年度から福島県立博物館にやってきました。

ー県外出身ですが、現在は会津在住。住み心地はいかがですか？とても快適です。会津って山に囲まれますよね。それがなんだか安心します。

ー佐藤さんは考古分野の担当です。考古学を志したきっかけはなんですか？

高校時代の歴史の先生が、ある時授業に縄文土器と黒曜石を持ってきたんです。それに触った瞬間にはまりましたね。5000年も前の人々が作った、使っていたものが目の前にあるということにすごく感動して。これに詳しい人になりたいと思ったんです。

ーその中でも特に弥生時代を専門にしていますよね。この時代を選んだ理由は？

実は大学時代の先生が、現・福島県文化財センター・白河館・まほろんの石川日出志館長なんです。石川先生の話がすごく面白くて、先生をきっかけに改めて弥生時代にハマりおしました。あとは好きな土器があって、平沢型壺というんです。条痕文と縄文がほどこされた細頸の土器なんです。これがすごくいいですよ。この土器に出会ったこともきっかけの一つですね。

ーそんな弥生時代の面白さってなんですか？

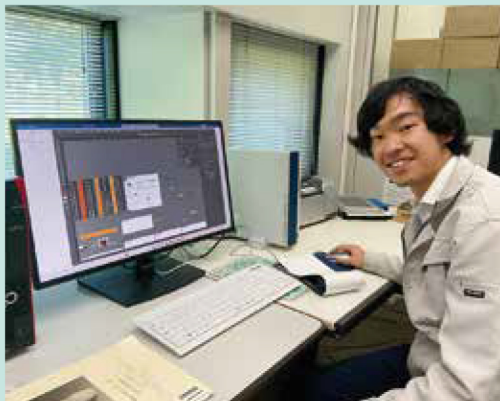
弥生時代って、色んなものが全国に広がっていく時期なんです。お互いに影響しあって、これを取り入れる、取り入れないっていう動きが起きるんです。それぞれの地域の特徴が固まり始める時代といえるんじゃないかって考えてます。その過程を探っていくのが面白いですかね。

ー最後に、学芸員を目指したきっかけは何ですか？

高校生の時に、地元の博物館でワークショップに参加したんです。それがとても楽しくて。人に何かを伝える、おもしろさを共有するっていうのがいいなって思って、博物館みたいなところで働きたいと思いました。

ー実際に学芸員になったわけですが、最後に今後の抱負をお願いします

まだ2年目ですが、すごく楽しいですね。特に福島県立博物館は色々な取り組みをしているので。学生の頃、博物館学のレポートを書きながら「こんなことを博物館でやってみたい、やればいいの!」と思っていたことを、実際にやっているんですよ。これからも楽しみなが、考古学や弥生時代のおもしろさを伝えていきたいです。



ポイント展＋ 金山町三條のヤマサキ巻物

学芸員(民俗分野)の山口拡さんに聞きました

あなたは巻物を持っていますか？

「巻物」と聞くと、マンガやアニメで忍者が使われるなんてイメージがあるのでは?しかし、只見町や金山町をはじめとする奥会津地域では、大工や屋根葺き、林業に関わる人など色々な職人が巻物を伝えてきたんです。これらは「職人巻物」と呼ばれ、その職業の由来や独自の技術などを伝えており、一種の免許状・許可証としても機能していました。

ヤマサキってなに？

ヤマサキとは山の神を祀る家(人)のことを指します。集落の中で山の神に関わる祭りや儀礼を取り仕切っていました。また、狩猟を行う者であり、狩りに関する技術や伝承を儀礼を行ったりもしていました。

どんな巻物なの？

この巻物は金山町三條(三条)という集落に伝わっていたものです。最後の持ち主は栗田清蔵さんという方で、昭和40年頃にお亡くなりになったそうです。この三條集落自体も、昭和の終わりの頃までには住民がいなくなってしまったようです。

栗田さんが持っていた巻物は大小1つずつで、大きい巻物には狩猟に関する儀礼などが、小さい巻物には狩猟に携わる人の由来が記されています。

大きい巻物は全長が5メートル近くあるため、残念ながら今回の展示では全てをお見せすることはできません。中身の詳細はいずれ公表する予定ですので、こちらも楽しみに。

